

科目区分	教養科目	授業科目名	日本国憲法			科目コード	25Y008	担当者	太田 久美子		担当形態	単独	
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	2年次	開講学期	前期	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	幼稚園教諭必修		
授業形態	講義	履修条件						教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分				
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	弁護士としての経験と知識を基に日本国憲法の基本的な事項等について教授する。						科目に含めることが必要な事項				

授業の主題	日本国憲法の基本的事項について理解し、「権利」とは何か、なぜ権利を護らなければならないのか等という点について、自らの力で考える力を養うことを目指します。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	授業の中で実施する課題等や小テストは、授業で解説します。定期テストの答えは返却しません。試験後の質問等は、期間を定め、メールにて受け付けます。
授業の方法	1. 講義を中心として授業を進めます。授業中は、適宜、発言を求めます。 2. 不定期に、課題の提出等を求める予定です。 3. 1～2回程度、DVD(映画)視聴を行う予定です。	アクティブ・ラーニングの実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	ガイダンス、法律とは何か、憲法とは何か	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第9回	基本的人権の理論と実践(6)：精神的自由権②～表現の自由、学問の自由～	予習：事前課題／復習：教科書、配布したレジュメや板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第2回	日本国憲法の基本原理(1)：憲法の最高法規性、民主主義、平和主義	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第10回	基本的人権の理論と実践(7)：経済的自由権、人身的自由権	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第3回	日本国憲法の基本原理(2)：個人主義、自由主義、立憲主義の生成と変容	予習：事前課題／復習：教科書、配布したレジュメや板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第11回	基本的人権の理論と実践(8)：社会権①～生存権、労働権、労働基本権～	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第4回	基本的人権の理論と実践(1)：人権享有主体性、私人間効力	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第12回	基本的人権の理論と実践(9)：社会権②～教育を受ける権利、教育や子どもをとりまく問題～	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第5回	基本的人権の理論と実践(2)：包括的基本権①～プライバシー権～	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第13回	基本的人権の理論と実践(10)：参政権、国務請求権	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第6回	基本的人権の理論と実践(3)：包括的基本権②～自己決定権～	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第14回	統治：国会、内閣、裁判所	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第7回	基本的人権の理論と実践(4)：法の下での平等	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	第15回	総括：平和主義、人権論等	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。	
第8回	基本的人権の理論と実践(5)：精神的自由権①～思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由～	復習：教科書、講義で配布したレジュメや講義中の板書内容等を振り返り、講義内容の理解を深める。			事前・事後学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	ポケット六法 最新版/有斐閣、憲法がわかる46のおはなし 檻の中のライオン/椋 大樹/かもがわ出版	受講生へのメッセージ	私たちが、より自分らしく、より幸せに生きるために欠くことのできないものが法律であり、憲法です。自分自身、そして他者を尊重しながら生きていくために、憲法について学び、考えていただきたいと思います。講義中の私語は厳禁です。
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																	
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	学修成果の配点比率(%)	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度					
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S:100~90%)	レベル4 (A:89~80%)	レベル3 (B:79~70%)	レベル2 (C:69~60%)	レベル1 (F:59%以下)
観点	尽心・志向	① 学習意欲	20					20	自らの体調や時間等を管理し、勤勉に取り組むことができる。	勤勉性・真面目さ、自己管理能力など	授業内での発表・発言、授業態度など/課題への取り組みなど	自らの体調や時間等を管理する力を十分に有しており、非常に勤勉に取り組むことができる。	自らの体調や時間等を管理する力を十分に有しており、勤勉に取り組むことができる。	自らの体調や時間等を管理する力を有しており、勤勉に取り組むことができる。	自らの体調や時間等を管理する力を有しており、ある程度勤勉に取り組むことができる。	自らの体調や時間等を管理する力が不十分であり、勤勉に取り組むことができない。	
		② 規律性															
	知識・技能	③ 知識	40	30		10			憲法について知り、説明できるようになる。	基礎的・専門的知識など	筆記試験・レポートなど/憲法・法律に関する知識の習得、専門用語の理解など	憲法に関する知識を十分に有しており、他者に説明できる。	憲法に関する知識を十分に有しており、他者に説明できる。	憲法に関する知識を有しており、他者に説明できる。	憲法に関する知識をある程度有しており、他者に説明できる。	憲法に関する知識が不十分であり、他者に説明できない。	
		④ 技能															
	思考・判断	⑤ 情報活用能力															
		⑥ 課題解決力	10			5	5		憲法について学び、法的思考を実践することにより、人権相互間の衝突を解決する考え方ができる。	問題発見力、論理的思考力など	授業内での発表・発言、レポートなど/専門用語の理解、法知識の応用、発想力など	憲法について学び、法的思考を実践することにより、人権相互間の衝突を解決する考え方が十分にできる。	憲法について学び、法的思考を実践することにより、人権相互間の衝突を解決する考え方がある程度できる。	憲法について学び、法的思考を実践することにより、人権相互間の衝突を解決する考え方ができる。	憲法についてある程度学び、法的思考を実践することにより、人権相互間の衝突を解決する考え方ができる。	憲法について学びが不十分で、法的思考の実践により、人権相互間の衝突を解決する考え方ができない。	
	表現	⑦ 言語活用能力	20	10		5	5		習得した知識に基づき、具体的事案について考察し、その結果を他者に伝えることができるようになる。	読む力、書く力、聞く力、話す力など	授業内での発表・発言、筆記試験・レポートなど/専門用語の理解、法知識の応用、発想力、表現力など	習得した知識に基づき、具体的事案について考察し、その結果を他者に十分に伝えることができる。	習得した知識に基づき、具体的事案について考察し、その結果を他者に伝えることができる。	習得した知識に基づき、具体的事案について考察し、その結果を他者に伝えることができる。	ある程度習得した知識に基づき、具体的事案について考察し、その結果を他者に伝えることができる。	習得した知識に基づき、具体的事案について考察し、その結果を他者に伝えることができない。	
		⑧ コミュニケーション力															
	実践	⑨ 主体性	5				5		講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、発言できるようになる。	積極性、行動力、応用力など	授業内での発表・発言など/専門用語の理解、法知識の応用、発想力、表現力、積極性など	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、積極的に発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、ある程度積極的に発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、積極的に発言できない。	
		⑩ 協働性	5				5		講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、発言できるようになる。	多様性・他者理解など	レポートなど/法的思考の理解度、専門用語の理解など	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、積極的に発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、ある程度積極的に発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、発言できる。	講師による随時の問いかけに対し、自らの考えをまとめ、積極的に発言できない。	
合計			100	40		20	20	20									